

# 広報あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 ☎(代表) 2004  
印刷所 赤池印刷 毎月 1回発行

町の人口	
人口	9,641人 (減3)
男	4,603人 (増6)
女	5,038人 (減9)
世帯数	3,147世帯 (減6)
出生	4人
死亡	8人
転入	33人
転出	32人

(昭和57年2月末日現在)

## 財政再建へ“試練の年”

### ふんばれるか 赤池



三月十二日に開  
会された、昭和五  
十七年三月定例町  
議会の初日、香月  
町長は、昭和五十  
七年度予算の提出  
にあたり、次のよ  
うに施政方針を述  
べました。  
こんにちの社会

議員の皆さんをはじめ、多くの住民の方からいろいろなご意見を拝聴いたしました。これらの問題については、一日も早くその改善と対応はゆるがせにできないものであると切実に痛感しているところがあります。

教育、体育、文化の物心両面の充実、産炭地振興と就労対策事業の拡充、同対法の延長、鉱害復旧の早期着工、福祉対策等について山積する諸事業は、国や県に対しても強く要請を重ねていく所存であります。また、町内部における行政の取り組みは、まず、弾力性のある財政状況に一日も早く回

## 国・県へ『攻め』の姿勢で望む

情勢は、景気の低迷と複雑な諸問題の中で、不安定な社会構造を反映しているのが現状であります。この情勢下において、住民の皆さんの心の安らぎと、生活、経済の安定をいかにして少しでも与えることができるか、行政に課せられた責務と行政のとるべき方向を明らかにしなくてはならないと思っております。

昨年一年間、町議会

復することでありませう。

本年度、町の財政運営におきましては、諸経費の一律削減の措置も行わざるを得なくなっております。予算総額では、約十・五パーセントの伸びとなっておりますが、実質的には伸び率はゼロに等しいものであり、財政再建試練の年であると思えます。

このことから、予算の編成に当っては、事業面で緊急重要な事業で国の認可が得られるものを当初計上し、用地等の未解決分については、条件整備後に補正をお願いすることにいたしました。福

社対策等につきましては、できるだけ現状維持を保ちたいと考えておりますが、やむなく縮小せざるを得ないものもあるかと判断されます。しかし、これらの対策は、議会議員の皆さん方ともご相談を申し上げて対処していく所存であります。

行政面においては、財政事情悪化のため、職員の創意と工夫により、財政の効率的な運用がなされるよう、全職員をして一段と努力を重ねるよう指導していきたいと思っております。

これらの対策として、これまで推進してきた諸施策の定着をはか

ることであると思えます。そのためには、基本構想でありますところの人口増と企業誘致の実現に向けて、住宅団地の早期売却、工場団地の造成整備を公団に早期着工要請をしていくことでもあります。

赤池町の浮揚は、この二つの団地にかかっているといっても過言ではない現状であります。このことは、財政再建計画の基本的要素ともなるものであり、本年度の予算編成におきましても自主財源として、当初から組み入れを余義なくされているところであります。これらのきびしい情勢の変化を



見つめながら、財政再建を念頭におき、議員の皆さん方も十分にご協議を申し上げ、対処して行きたいと思えます。

(議案内容については、次号)で掲載。



# 差別をなくすために

(1)

私たちは、みんな健康で長生きしたい、安定した仕事について力いっぱい働きたい、豊かな生活をしたい、愛する人と結婚し幸福な家庭をつくりたい、平和で自由な世の中でありたい、とだれもが願っていると思います。

## しあわせはわたしのねがい

しかし、私たちの身のまわりには、しあわせをさまたげる部落差別をはじめ、人権侵害や不当な差別の事実があることを知っていたら、だいたいと思います。部落差別をなくすことは、身体障害者に対する差別、女性に対する差別、在日外国人に対する差別、その他いろいろな差別をなくすことにつながるのです。だから同和問題が、単に同和地区の人たちだけの問題でなく、みなさん一人ひとりの問題と深いかわりがあるのです。

「結婚問題でも年よりの考え方と若い者の考え方はちがってきている」「同和对策事業はやりすぎではないか」「同和地区の人たちはいいな」「同和問題はこゝろまでまっすぐいけば自然になくなるのではなかろうか」

会の内容をまとめてみますと、町民の同和問題に対する考え方に多くの問題が残されています。意見をまとめると、「今の世の中に部落差別はない」「自分は差別をしていない」「自分は差別をされたことがない」「同和問題は同和地区の人たちの問題で自分たちとは関係ない」「学校で同和教育をすることに、かえって差別が広がるのではないか」「学校での同和学習の中で、部落の存在をややもすると歪んだかたちで覚えることになるので生徒が完全に理解できるまで教えてほしい」「結婚問題については本人同意がよくても、親、兄弟、周囲の人が反対する」

「このような懇談会をぜひ実施し、みんなといっしょに勉強していきたい」など、いろいろな意見がありました。同和問題の解決は、みんなが自由で平等に生きるための基本的な問題なのです。同和問題の早急な解決は、国及び地方公共団体の責務であり、同時に国民的課題である。このことが、同和对策審議会答申の中で明らかにされています。



同和問題が解決するために、次回より歴史を背景に、同和シリーズ、「差別をなくすために」を掲載いたしますので、家庭、職場、地域などでご利用願います。つづく

明治4年8月28日「解の激しい差別意識も露呈 多毎日新聞」が差別記事掲載令」公布される  
同6年6月15日「干ばつ 分三県の被差別部落の発起 糾弾」と米価高騰に悩む福岡県下の農民が立ち上がり「筑前竹槍一揆」に発展。県庁、富農が目標だ。人23人が自立的運動を目撃したが、解放令反対で治道指し「復権同盟」を組織。会主催、第1回同情融和大会の部落を焼き払うなど当時 大正5年6月17日「博を東京築地本願寺で開く」

### 解放運動の歩み

同7年 全国的に米騒動が起き、部落大衆も立ち上がる  
同8年2月3日 帝国公道



## みんなの広場

### 俳句

老人ホーム天郷荘 松本たかし

目覚むれば舌こおばれり霜冷ゆる  
くす湯のむ身につく思ひ春に伏す  
早春や牛乳半分許さるる

### 出水の鶴吟行記

蔵本はるの女

三月六日、全員八人、赤池発九時。快晴の中を高速路に乗り、走ること六時間、鶴の居留地荒崎に着いたのは、太陽がやや西へ傾きかけた頃である。  
広々とした野に鶴が屯ろしている。どの位の数であろうか二千とも三千とも見える。  
鶴監視員の久野末治さん宅に着く。玄関前にはわかめや切干大根が干されている。いったん荷物を置いて熱いお茶に一息入れる。と

はいえ、落着く暇もなく、展望台へ上る者、鶴の田を幾枚か距てた畦に立っては早々に句を記す者。鶴守(久野さん)が望遠鏡を持って来て下さる。交替で鶴の子細を観察する。八人中三人は初めてのこと、感動も亦一端入るものがある。夕冷がだんだんと募ってくる。何処で一日を過すのであろうか。四囲の山より忽然と湧く如く、塙田(はたけ)として鶴が戻って来る。一陣、二陣と、壯麗な景である。天に地に啼き交わす鶴に冷えて伴う暮色が静かに迫りつつある。夕方から雨になるかと心配していたけれど、薄闇の中を遅れ戻る鶴に春の月がおぼろに照らしている。風が強くなり寒さも加わってきた。部屋に引き揚げ第一回目の句会。

第一回目の句会後夕食。食事の合間も時折鶴の野へ心向ける。啼き交わす声ですぐそこに鶴が居るかに近くに聞える。食堂の壁には鶴の写真が所狭し貼ってある。食事後また戸外へ、長くは居られない位寒い。風も荒々しい。悴みつつも鶴の野に行ちつくす。塙田の鶴はもう全く見えない。僅かに水明りが暮色を距てている。かつてなき数の夕鶴に今宵の見納めとして部屋へ戻る。冷えきった身体を支えているのは、鶴との出会いの感動が心を暖かくしてくれているからだ。鶴の野を虎落笛の鳴り渡るのが聞える。第二回目句会。

の雑魚寝もまた楽し。  
※先号で悴(すい)かむは、悴(かし)かむの誤りでした。  
わたしやあ「ボケとる」言われて七年にもなります。「ここ」の名称は「姥捨山」などと私どもは名付けております。天使さまは「夢の国」と言いました。  
若くして迷われた人、糸が切れてしまったお年寄り、生まれつきわずらった人、安住の地を求めた者どうしの寝ぐらにございます。  
私は、おしめの世話になって三年、出ものはれもの所嫌わず、天使さまが、時間になれば手をかけてくださる。いつぞやは、五本の指めが血迷うて部屋中、ウンチをばらまきましてなあ、隣のババさまなんぞ知らんぶりしてセンペイをばりばり食べていなさってね、ミソもクソも一緒とは、こんな事なんでしょうね。  
天使さまは、よく「夢ですよ」と言いますが、B29の爆音や父さんの軍服姿、飢餓の毎日、子供たちの泣き声、あれは、今も続いているんですよ。戦争は、終つちやあいなんです。私は、今までにずっと、どんな苦しい時でも、「億万の金より子は宝」そう信じて九

人の子供を育ててまいりました。でも、せちがら世間さまは、何でもかんでもクズ籠へボイなされるのでしょうか？愚痴をこぼせば情けない。あてにすれば淋しい、独り物だと思えば気が楽になる。誠の身内は天使さまかもしれないと自分に言いかけたらしい。  
もし、あなたの所に友達が還りましたら、おさぶの上に座らせて熱いお茶をよんでくださいな。世間体もあるでしょうが、家族がもう一人いることを、目をつぶって思い出してよねえ。私らの一番欲しいのは、あなたという精神安定剤なんです。  
来てくれたら、枕元をかたずけて下着を着替え、おぐしをきれいにしてもらい、窓の向うの話を沢山聞きたい。それだけで私は、いっお迎えが来てても良いですがのう。助け合い、恵み合う、レクリエーションとやらも山積み「ここ」ではあります。そんなものより、あなたさま、どうぞここに、ここにいてくださいまし。涙ごいや夢の使い人でもございませぬ。血を分けたあなたと私でございませぬ。何とぞ、よろしゅうお願いします。申し上げします。  
それから、今は何月か、父さんの法事はいつなのか、仏様に手を合せたい。「南無阿彌陀仏」  
ああ、それからもう一つ、私は八十の坂を越したのでしょうかね。



(みこび2赤池チームのみなさん)

### 赤池チーム会心のV2!!

#### 第3回田川郡PTAバレーボール大会

二月十四日、添田町体育館で田川郡内八町村が参加して、第三回田川郡PTAバレーボール大会が盛大に行われました。  
赤池町チーム(滝本武則監督 選手十三人)は上野小学校と市場小学校のPTA関係者で編成されたチームで、二回戦は金田町にストレート勝ち、二回戦は、香春町と対戦、第一セットを取られたものの、第二、第三セットを取り逆転勝ち、決勝戦では、川崎町に二セットストレート勝ちして、第一回大会に続き、二回目の優勝を飾りました。